

(写)

総 第 50 号
令和3年5月27日

妙高市議会議長 関 根 正 明 様

妙高市長 入 村 明

妙高ふるさと振興株式会社令和3年度事業計画並びに
令和2年度事業にかかる決算について

妙高ふるさと振興株式会社の令和3年度事業計画並びに令和2年度事業にかかる決算について、
地方自治法第243条の3第2項の規定により報告いたします。

令和3年度 妙高ふるさと振興株式会社 事業計画書

<事業計画>

「道の駅あらい」は8月に開業21周年を迎えますが、この間、県内外から多くの方々にご利用いただく施設として成長してまいりました。

昨年7月には拡充道の駅エリアがオープンし、新たな魅力が加わったことから、より一層多くの方にご利用いただけるよう妙高市、国土交通省等関係機関のご指導、ご協力を得ながら、施設の良好な維持管理に努めてまいります。

弊社所有地に出店する物産センターや飲食店等の商業施設においては、集客の状況が店舗の経営を左右することから、感染拡大に留意しながら出店者会と一体となってイベントを開催し、誘客促進を図ります。

また、引き続き契約期間満了を迎える出店者と土地賃貸借契約の再契約手続きを進めてまいります。

指定管理施設は、これまでの「くびき野情報館」に加え、昨年度から新たに「四季彩館ひだなん」と「四季彩館みようこう」の二つの農業振興施設が加わりました。

両施設とも、直売所と食堂施設を備え、パートナー事業者が運営にあたっておりますが、特に新規開業施設「四季彩館みようこう」は、早期に安定経営が図れるよう、引き続き運営の支援を行ってまいります。

【指定管理施設の状況】

施設	(情報発信施設)	(農業振興施設)	
	くびき野情報館	四季彩館ひだなん	四季彩館みようこう
運 営 事業者	妙高ふるさと振興(株)	(株)ひだなん	(株)みようこう未来 創造商社
契 約 期 間	令和3年度～ 令和11年度	令和2年度～令和11年度	

6次産業化の取り組みでは、一昨年より進めているヨモギの試験栽培について、今年度もメーカーの指導と地域の協力を得ながら継続し、事業化を検討してまいります。

また、市内障がい者施設に製造委託しているサブレ「妙高雷菓」の販売にも取り組みます。

そのほか新規事業として、地域資源である木材を活用した SDGs に資する地場産業振興事業について調査、研究し、調整が整った段階で実証事業に着手したいと考えております。

<事業展開>

1. 道の駅構内の維持管理
2. 出店者会と連携したイベント開催
3. 「くびき野情報館」の指定管理
4. 「四季彩館ひだなん」、「四季彩館みょうこう」の指定管理
5. 6次産業化（地場産業振興事業）の調査、研究及び実施
6. 特産品の宣伝及び販売
7. 不動産の賃貸借、管理及びその仲介

<事業収益>

不動産の運用においては、新型コロナウイルス感染症の影響は見られるものの、空き店舗もないことから前年と同程度の地代・共益費収入の確保を見込んでおります。

施設管理面では、利用者の安心安全を第一に心がけ、これまで同様に専門業者への外部委託も行いながら、指定管理者として適正管理に努めます。

特産品の販売では、引き続き「ふるさと納税」返礼品の発送や店頭販売、県内外での物販イベントを通して、売上確保はもとより、地元特産品のPRなど地域振興につながるよう取り組みます。

これら事業収益の柱となるのは不動産収入であり、道の駅あらいの集客が各店舗の売上につながることを念頭に、より多くのお客さまにお立ち寄りいただけるような管理運営に努めてまいります。

令和2年度 妙高ふるさと振興株式会社 事業報告について

1. 事業の経過及び実績

1) 道の駅あらいの現況

道の駅あらいは、平成12年8月の開業以来20周年を迎えました。

一般国道からも高速道からも立寄ることができる立地の良さと、農産物直売所や物産センター、鮮魚センターのほか多彩な飲食店が出店し、例年、県内外から多くのお客様にご利用いただいております。

しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う4月の全国緊急事態宣言以降は利用者が減少し、通常は混み合うゴールデンウィークやお盆の時期も閑散とし、現在も客足が戻りきらず感染拡大の影響が続いています。

そのような状況下、7月には妙高市が整備を進めていた拡充道の駅エリアに「四季彩館みょうこう」がオープンし、弊社は指定管理者として施設の管理運営を行ってまいりました。

2) 不動産管理の状況

弊社経営の根幹を成す商業施設の状況は、空き店舗もなく14店舗がそろって営業しております。

また、出店者との土地賃貸借契約の契約期間が順次満了となることから、再契約手続きを進めてまいりました。

3) 指定管理施設の管理運営

これまでの「くびき野情報館」に加え、今年度から「四季彩館ひだなん」と「四季彩館みょうこう」の指定管理者として、施設管理を担ってきました。

【弊社指定管理施設の状況】

施設	(情報発信施設)	(農業振興施設)	
	くびき野情報館	四季彩館ひだなん	四季彩館みょうこう
運営事業者	妙高ふるさと振興(株)	(株)ひだなん	(株)みょうこう未来創造商社
契約期間	平成29年度～ 令和2年度	令和2年度～令和11年度	

①情報発信施設「くびき野情報館」

くびき野情報館は、総合案内所として地元妙高はじめ近隣の観光や道路情報を提供するほか、喫茶営業を行い、お客様の休憩スポットとして利用されています。

本年度の入館者数は、緊急事態宣言を受け4月22日から5月末日まで休館したこともあり、前年度比43%減の16万8千人の来場にとどまりました。

例年、館内イベントギャラリーにおいて様々な展示会が開催されておりますが、本年度はコロナ禍でほとんどが中止となりました。

②農業振興施設「四季彩館ひだなん」

農産物直売所と食堂を兼ね備えた同施設は、今年度より弊社が指定管理者となり、パートナー事業者である新設法人「株式会社ひだなん」が運営にあたりました。

緊急事態宣言による移動自粛要請などの影響で、売上金額が前年度比約80%に落ち込みましたが、DMの活用や生産者組合との連携による品揃えの徹底など、創意工夫を凝らした経営元年となりました。

③農業振興施設「四季彩館みょうこう」

7月に国道の東側にオープンした同施設は、農産物直売所と食堂のほか、防災機能を備えた芝生広場が併設されています。

直売所と食堂部門の運営は、弊社も経営参画した新設法人「株式会社みょうこう未来創造商社」がパートナー事業者として運営にあたりました。

コロナ禍による逆風下、農産物の確保や商品の品揃えに試行錯誤しながらの一年となり、また大雪による影響もあって、苦難のスタートとなりました。

4) 道の駅あらいのPRとイベント開催

道の駅あらいの利用促進のため、例年同様に各種情報誌、新聞、ラジオなどの媒体に広告を掲載しました。また、拡充エリアオープンに伴い道の駅パンフレットとホームページのリニューアルを行いました。

イベント開催では、当道の駅最大行事「くびき野縁日」は感染症の影響で中止としましたが、出店者会と連携して10月に「ハロウィン&フリーマーケット」、1月には「新春お楽しみ抽選会」、3月には「クーポン&スタンプラリー」を開催し、集客に努めました。

そのほか、7月の四季彩館みょうこうオープン時には妙高市とともに開業イベントを実施しました。

5) 特産品の販売

地元特産品の販売では、「くびき野情報館」において妙高の「あっぱれ逸品」を中心とした商品の販売を行いました。

また、妙高市の「ふるさと納税」返礼品発送業務は、市内事業者の参画などもあって、およそ 600 件、200 万円の取扱いに留まり、前年度比約 60%の減少となりました。

そのほか、例年は妙高市の友好都市や表参道・新潟館ネスパスなどのイベントに出店し、特産品販売を行っておりますが、本年度は感染症拡大の影響で全て中止となりました。

6) 新たな 6 次産業化への取り組み

昨年度より取り組んだ大鹿地区におけるヨモギの試験栽培に、継続して取り組みました。まだ、試行錯誤の状況ですが、メーカーの指導と地域の協力を得ながら、事業化の道を探っていきたいと思います。

そのほか、自然豊かな妙高のシンボルである「ライチョウ」をモチーフに妙高産米粉を使ったサブレ「妙高雷菓」の販売に取り組みました。製造は市内の障がい者施設に委託し、今年度はおよそ 20 万円の販売となり、代金の一部はライチョウ保護に取り組む生命地域妙高環境会議に寄付いたしました。

2. 令和 2 年度の経営状況

【概要】

税引前当期純利益は約 960 万円と前年同期と比較し、およそ 25 万円の減益となりました。法人税、住民税及び事業税を控除した当期純利益は約 710 万円と、前年同期比約 30 万円の減益となっています。

利益剰余金の処分としては、前年同期と同額 160 万円の株式配当を、また 400 万円の積立を実施いたしました。

収入と支出の主な内容は、以下のとおりとなっています。

【収入】

- ・不動産収入は、約定通り 11 社から約 2,660 万円の地代収入、共益費は 13 社より約 1,530 万円の収入がありました。
- ・施設委託等収入は、妙高市からの委託料収入約 2,190 万円で、新規開業施

設「四季彩館みょうこう」の管理委託料約 750 万円のほか、大雪による除雪費増額などにより、前年と比較して約 1,030 万円の増額となりました。

- ・商品等売上は、約 880 万円となり、前年同期と比較しておよそ 680 万円の減額となりました。これは「ふるさと納税」返礼品の受注減少や、喫茶の売り上げ減少、自動販売機手数料の減少が主な要因です。
- ・商品仕入高は、約 310 万円と前年同期比約 360 万円の減額となりましたが、主に商品の売り上げ減少に起因する減額で、売上総利益は約 6,940 万円とおよそ 770 万円の増額となりました。

【支 出】

- ・合計で約 840 万円の増額となりました。
- ・増額の主なものとして、委託管理費では大雪により除雪費が約 560 万円の増額並びに四季彩館みょうこうの清掃委託費約 140 万円の増額、水道光熱費では四季彩館みょうこうにかかる費用増などで約 100 万円の増額、また広告宣伝費はホームページリニューアルなどでおよそ 90 万円の増額となりました。
- ・減額の主なものとして、委託管理費では「くびき野縁日」の開催取止めによる協賛金 120 万円の減額、支払手数料では出店者との土地賃貸借契約更新件数の減少に伴う不動産コンサルへの支払い手数料約 60 万円が減額となっております。

3. 道の駅あらいの取組みの方向性や課題

道の駅あらいは、妙高市の情報発信、交流拠点として多くの市民や観光客に利用されています。

しかしながら、現在、コロナ禍の影響で出店者は店舗経営にご苦労されており、一日も早く感染症が収束し、以前のような活気ある賑わいが戻ることを願っております。

そのような状況下ではありますが、様々な店舗が出店する商業施設は当道の駅の特徴であるとともに、弊社の経営にも大きく影響することから、出店者会と連携したイベント開催などにより、集客の確保に努めてまいります。

新規開業施設「四季彩館みょうこう」は、今年度は思うような集客につながらず、苦しいスタートとなりましたが、来年度は多くのお客様にご利用い

ただけるよう、パートナー事業者と連携して取り組んでまいります。

そのほか、第三セクターである当社の目的の一つである産業振興及び地域振興に結び付く施策を引き続き検討し、事業化を模索したいと考えております。

第 23 期

決算報告書

令和 2 年 4 月 1 日から

令和 3 年 3 月 31 日まで

妙高ふるさと振興株式会社

(法人番号:1110001020209)

損益計算書

令和 2年 4月 1日から
令和 3年 3月31日まで

商号 妙高ふるさと振興株式会社

(単位: 円)

科 目	金 額		
I 売地共 代 上 収 高 益 費 収 入 設 委 託 入 品 等 売 上	26,622,792 15,353,352 21,884,770 8,833,767	72,694,681	72,694,681
II 売期商 首 上 原 価 品 た な 卸 末 た な 入 上 総 利 益	3,096,082	489,314 3,096,082 3,585,396 348,736	3,236,660 69,458,021
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 販 費 及 び 一 般 管 理 費 営 業 費 及 び 一 般 管 理 費		60,576,550	60,576,550 8,881,471
IV 営 業 外 収 益 受 取 取 配 当 雑 取 取 配 当		5,509 600 697,360	703,469
V 営 業 外 費 用 営 業 外 費 用		0	0
経 常 利 益			9,584,940
VI 特 別 利 益		0	0
VII 特 別 損 失		0	0
税 引 前 当 期 純 利 益 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 当 期 純 利 益		2,443,700	9,584,940 2,443,700 7,141,240

株主資本等変動計算書

商号 妙高ふるさと振興株式会社

令和 2年 4月 1日から
令和 3年 3月31日まで

(単位:円)

I	株主資本						
1.	資本金						
		当期首残高				40,000,000	
		当期変動額				0	
		当期末残高				40,000,000	
2.	利益剰余金						
(1)	利益準備金						
		当期首残高				10,000,000	
		当期変動額				0	
		当期末残高				10,000,000	
(2)	その他利益剰余金						
	別途積立金						
		当期首残高				110,000,000	
		当期変動額					
		別途積立金の積み立て	4,000,000			4,000,000	
		当期末残高				114,000,000	
	繰越利益剰余金						
		当期首残高				52,715,521	
		当期変動額					
		別途積立金の積み立て	-4,000,000				
		剰余金の配当	-1,600,000				
		当期純利益	7,141,240			1,541,240	
		当期末残高				54,256,761	
	その他利益剰余金合計						
		当期首残高				162,715,521	
		当期変動額					
		別途積立金の積み立て	0				
		剰余金の配当	-1,600,000				
		当期純利益	7,141,240			5,541,240	
		当期末残高				168,256,761	
	株主資本合計						
		当期首残高				212,715,521	
		当期変動額					
		別途積立金の積み立て	0				
		剰余金の配当	-1,600,000				
		当期純利益	7,141,240			5,541,240	
		当期末残高				218,256,761	
II	評価・換算差額等						
		当期首残高				0	
		当期変動額				0	
		当期末残高				0	
III	新株予約権						
		当期首残高				0	
		当期変動額				0	
		当期末残高				0	
	純資産の部合計						
		当期首残高				212,715,521	
		当期変動額					
		別途積立金の積み立て	0				
		剰余金の配当	-1,600,000				
		当期純利益	7,141,240			5,541,240	
		当期末残高				218,256,761	

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 2年 4月 1日から

令和 3年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
運賃	192,400
広告宣伝費	2,217,535
会議費	17,917
役員報酬	3,300,000
職員給与	16,072,744
法定福利費	2,558,253
厚生債	450,678
減価償却費	2,713,225
地代	2,885,449
修繕費	829,419
事務用品	517,292
通信費	975,254
水道光熱費	5,739,240
租税公課	2,389,334
接待交際費	123,342
保険料	402,830
備品消耗品費	767,361
委託管理費	14,700,478
諸会費	189,227
リース料	79,268
支払手数料	1,642,254
雑費	1,813,050
合 計	60,576,550

たな卸資産の計算内訳

令和 3年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商 品	348,736
合 計	348,736

監査報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日までの第23期事業年度について、取締役が作成した計算書類および事業報告ならびに附属明細書について監査いたしました。その結果につき、以下の通り報告いたします。

1. 監査の方法および内容

監査役は、取締役等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等の閲覧および業務ならびに財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類および事業報告ならびに附属明細書につき検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1)会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表および損益計算書の記載と合致しているものと認めます。
- (2)貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表およびこれらの附属明細書は、法令および定款に従い、会社の財産および損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているとして認めます。

令和3年4月27日

妙高ふるさと振興株式会社

監査役

飯吉 亨



監査役

池田 弘

